保健師最前線

住民さんがいきいきと
生活できる環境をめざして

笠置町
政所　美希さん

前回取材を受けてから、３年ぶり２度目の登場となりました。
「以前と変わりなく、住民さん一人ひとりの顔を見ながら仕事ができることに喜びを感じています。」

２人の保健師で町全体の母子から成老人まで受けもち、個人としっかり向き合いながら支援をしている中で、３年前と大きく異なることは平成２０年から特定健診・特定保健指導が導入されたことだ。

受診率がなかなか上がらない状況にあり、また、集団健診を行う際には、保健センターがないこともあり会場が限られていること、検診車の手配が必要であること等により日程調整などから難しい。しかし、受診しやすい環境づくりを課題とし、人間ドック機関の確保などに努めている。

また、事務作業が増えたため保健活動を行う時間が減ってしまったが、既存の育児に関する健康教室や成老人に対するとじこもり予防教室等の事業は継続して実施している。

教室自体はもちろんのこと、会うことを楽しみに待っていてくれる住民さんがいて、終わった時には笑顔で帰ってくれるという。

「住民さんに会うとやっぱり笑顔になって、元気をもらえます。」
笑顔・元気をくれる住民さんに対して保健事業等を充実させて、住民さんが住民さんらしくいきいきと生活してもらえるような環境を作っていけるように、これからも支援に力を入れていきたいと語った。